

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第66号

平成30年4月10日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

3.19 楠正行シンポジウム、盛大に開催

扇谷、正行顕彰の取り組み、魅力を発信

東儀さんの特別講演でスタート

3月19日(月)、大阪電気通信大学四條畷キャンパス・コナミホールで、「楠正行シンポジウム『楠正行考』 小楠公と四條畷市～正行公の生き方と魅力」(四條畷市・産経新聞社主催)が開かれた。

このシンポジウムは、四條畷市にとっては、平成25年以来続けてきた楠正行シンポジウムの第6回として、また、産経新聞社にとっては、湊川神社、明治神宮、河内長野市に続く第4回楠正成考シンポジウムとして、楠正行最期の地となった四條畷市で開かれたもの。

この日、会場には早くも午前11時過ぎには入場者が集まり始め、午後1時の開会時には、約800人が会場を埋め、盛況の中での開幕となった。

第1部は、雅楽師、東儀秀樹さんの特別講演が行われ、巧みなトークで雅楽についての話が進んだ後、「青葉茂れる桜井の」等の演奏が披露されると、会場は静まり返り聞き入り、演奏が終わると、割れんばかりの拍手に包まれた。この日、アンコールに応じて、更に1曲演奏が行われ、会場には雅楽の余韻が漂った。(写真: いずれも3月20日付産経新聞朝刊)

四條畷楠正行の会の活動報告・絵本贈呈

第2部は、「活動報告」と題して、扇谷昭が四條畷市と四條畷楠正行の会の楠正行顕彰の取り組みについて報告し、大阪電気通信大学木子香講師が楠正行絵本制作プロ

ジェクトの取り組み報告と絵本制作にあたった学生による絵本の読み聞かせが行われた。

そして、完成した楠正行絵本6分冊1巻本の贈呈式が行われた。あいさつに立った贈呈側の大阪電気通信大学大石理事長兼学長は「電通大学は四條畷市唯一の大学。最高学府として地域貢献が何よりも大切で、この度、絵本を地元図書館に贈ることができ大変うれしい。」と挨拶。

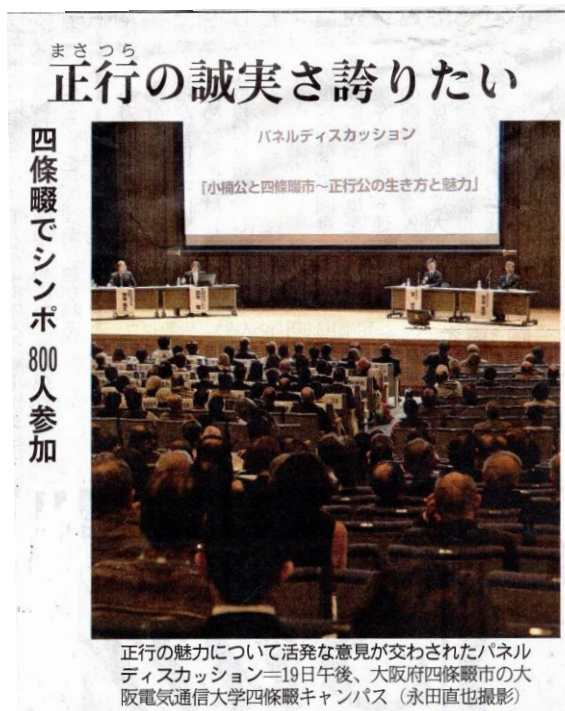
また絵本を受け取った四條畷市東市長は、「電通大学の学生の皆さんが精魂込めて制作された絵本を図書館に置き、四條畷の子どもたちに読んでもらいます。ありがとうございました。」とお礼の挨拶。

第3部は、パネルディスカッションが行われ、パネラーに、東修平四條畷市長、寺井種伯四條畷神社宮司、そして扇谷が、またコーディネーターは産経新聞安本寿久特別記者・編集委員によって行われた。

全体に進行が遅れ、当初70分の予定の第3部だったが、60分に短縮されたため、扇谷は、準備した発言のすべてを伝える

ことはできなかったが、パネルトークの中でもスクリーンを使い、映像を映し出すことで、より具体的に発信し、会場に訴えた。

閉会后、2階ロビーの展示・販売ブースを訪れると、東儀さん、商工会、文化観光協議会、産経新聞、扇谷の各コーナーに人が集まり、シンポジウムの余韻にしたりながら、それぞれ思い思いのコーナーで展示に見入り、東儀さんのCDや扇谷の小説「楠正行」を買い求める人で



正行の魅力について活発な意見が交わされたパネルディスカッション＝19日午後、大阪府四條畷市の大阪電気通信大学四條畷キャンパス (永田直也撮影)

混雑が続いた。

副読本の制作やバスツアーなど

第2部、扇谷の活動報告、発言骨子は以下の通り。

<今までの主な取り組み・経過>

- *平成24年4月、扇谷、四條畷市産業振興アドバイザーに就任。／同年12月、観光可視化戦略の策定・基本構想柱の一つに四條畷神社に祀られる楠正行
- *平成25年3月、第1回「楠正行シンポジウム」を四條畷神社会館で開催
- *四條畷市副読本「わたしたちの四條畷」を制作
- *平成26年6月、四條畷市立教育文化センター市民講座「楠正行の人間像に迫る」開講／20名の定員に40名強が集まり、郷土、誇りの人物、楠正行について学ぶ
- *平成26年11月、市民講座受講生と「四條畷楠正行の会」を立ち上げ
- *平成27年8月、扇谷、河内街道音頭を作詞・発表
- *『楠正行ゆかりの地を訪ねるバスツアー』開催／四條畷市教育委員会・教育文化センター共催事業。平成27年、建水分神社・観心寺・賀名生旧皇居・如意輪寺・桜井駅跡・宝篋院・正行寺等19カ所、平成28年、湊川神社・笠置寺・金剛寺・千早城址等5カ所、平成29年、楠妣庵観音寺・四天王寺・住吉正印殿跡・朝護孫子寺・光雲寺・延暦寺・天龍寺・東寺等11カ所、全15回、毎回市民25人と共に、3年間に計35カ所を訪れ、扇谷が同行・講師を務める。
- *四條畷楠正行の会の活動と楠正行資料室のオープン
- *平成28年6月と10月、現地学習『四條畷の合戦、その戦跡を訪ねて歩く』を開催
- *笠置山之城、元弘戦全図(模写)を入手
- *平成28年9月、スクリーン映像紙芝居「正成、正行の生涯」を制作
- *CD「大楠公・小楠公」を制作／扇谷、小楠公を作詞
- *四條畷楠正行の会、毎月、正行に影響を与えたと思われる人物を取り上げ、検証／後醍醐天皇・後村上天皇・北畠親房・四条隆資・龍覚坊・朱舜水・黙庵禅師・足利尊氏・細川頼氏・楠正儀・高師直／師泰・新田義貞・菊池一族・白河結城氏・名和長年・長宗我部元親・得能氏一族・弁の内侍・赤松円心・越智氏一族・久子の方・恩智左近・北畠顕家・佐々木道誉・山鹿素行・観阿弥

朱舜水の楠正行像賛の発見

<四條畷正行の会の活動を通じた出会いと発見>

- *如意輪寺、中興の祖 鉄牛上人は、楠氏の末裔の娘と長宗我部元親の間にできた六男・文親であった
- *楠正儀の三男、正盛は足利氏の弾圧から難を逃れ、土

佐に入り、楠瀬と名乗り、長宗我部氏と縁を結ぶ

- *高山右近、マニラ追放の前に残した「日本訣別の書」に正行辞世の歌を引用／正行の事績が、諸大名に広く認知されていたことを示す貴重な史料。
- *弁の内侍が正行の菩提を弔った西蓮華台院（現在は西蓮寺）と、扇谷の出生地津風呂はすぐ隣
- *正成墓『嗚呼忠臣楠子之墓』と正行墓『増従三位楠正行朝臣之墓』に込められた人々のあつい思い
- *交野市立星田小学校に今も立つ楠正行石像
- *正行に遺腹の子／異腹の子とは、父の死後に生まれた子どもの事。
- *楠氏、菊水家紋、その水流に二流／一説には、久子の方が、楠氏の隆盛を願い、再び歴史の流れを変えようと、水流の流れを変えたと伝わる。
- *正行は、生前正四位下に叙されていた／吉野郡上北山村には正行を主祭神とする四位殿神社。文化6年(1809)、小楠公墓に「正四位下檢非違使兼河内の守楠公碑」建つ。
- *正成像賛を書いた明の遺臣、朱舜水は正行にも像賛を残していた／扇谷、平成27年3月16日、国立国会図書館関西館で、明治45年、稲葉君山編朱舜水全集に朱舜水作の楠正行像賛148文字を発見。

- *正行顕彰のため、子どもたちに絵本を！／大阪電気通信大学の学生が、6分冊1巻本の絵本「楠正行」を制作。
- *大阪電気通信大学の平成30年度社会プロジェクト実習『楠正行カルタ』の制作！

正行は平和主義者・教養人

扇谷のパネルトークでの発言骨子。

- ① 忠孝両全の人、優れた正行は何故生まれたのか。家門主義・主戦論者でない平和国家論者。その原点を、櫻井の駅の遺訓に読み取れる。／正行の魅力の第一は、平和主義者。宝篋院は政敵にも慕われた正行の魅力を伝える地。また、家門・領土拡大のための戦いは一切せず、天下国家のため必要な戦いをしたもので、大川

に溺れる敵兵を救うことは正行にとって当然の事であった。

- ② ロマンチックで、気持ちの真っ直ぐな誇るべき人。母の訓戒に目覚めた正行、そして龍覚坊に全人格的教育を受けた。／正行の魅力第二は、武将としては勿論の事、一人の人間として教養に富み、達筆で、宗教や歌にも通じる学識者であった。建水分神社扁額の裏書、観心寺に残る国宣、如意輪寺本堂に納めた過去帳に記された辞世の文章等に読み取れる。そのことを象徴するように、飯盛山に建つ楠正行銅像は、右手に「筆」、左手に「矢失」を持つ。

(文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭)

